opusdei.org

属人区長の書簡 (2010年10月)

オプス・デイの属人区長はこの書簡で守護の天使について語ります。教会は10月2日に守護の天使を祝い、オプス・デイの創立記念日でもあります。

2010/10/07

愛する皆さん、イエスが私の娘たち と息子たちをお守りくださいますよ うに! 1928年10月2日の創立者の溢れる喜びを想像すると魂は歓喜に躍動します。神がお示しになった信頼に対して、ひざまずきながら心を込めて捧げられたあの時の創立者の祈りに、私たちも一致しましょう。その日に私たちも含まれていたことを、日に何度も思い巡らしましょう。

「主の天使たちよ、主を祝せよ、主 をほめ、代々にたたえよ。 | [i] 明 日、守護の天使の祝日のミサ聖祭 は、この聖書の言葉で始まります。 この言葉は、オプス・デイに所属し ている人たちにおいてはっきりと反 映されるべきことであり、私たち が、この新たな創立記念日にあたっ て神への感謝を深めるのに役立ちま す。創立者はこう強調されました。 「神が、教会のこの祝日にオプス・ デイをお示しになられたのは偶然で はありません (…)。私たちが考え ているよりもはるかに多くのこと

は、守護の天使たちのお陰なのです。」[ii] 聖ホセマリアが度々、たとえばアルゼンチンのラ・チャクラで、お聖堂に入る際にはご聖体の主を永遠に褒め称えている天使たちに感謝を表すようにと勧められたことを、皆さんに話せることを嬉しく思っています。

考えてみてください。天使への信心 は教会に深く根付いていることで す。旧約聖書にも新約聖書にも、こ の純粋な霊的被造物に触れていない ページはないと言えるほどです。彼 らは神を仰ぎ見、神のご計画の実現 に協力しています[iii]。ヨハネ・パ ウロ二世はあるカテケージスの場 で、天使の存在を否定してしまえ ば、聖書自体と救いの歴史を全て根 本から見直さなければならないこと になり[iv]、それはひどい過ちに陥 ることであると、指摘されました。

明日の祝日は、この霊的な存在とよ り深く付き合う機会を提供してくれ ます。何よりも彼らは神の被造物で あり、ただイエス・キリストのみが 天使界と全宇宙の中心です。人とな られたみことばであるキリストが、 被造界の長子であることは、カト リック信仰の土台の一つです。「天 にあるものも地にあるものも、見え るものも見えないものも、王座も主 権も、支配も権威も、万物は御子に おいて造られたからです。つまり、 万物は御子によって、御子のために 造られました。 | [v]

ベネディクト16世は、「天使とは何ですか」という質問に対して、こう答えておられます。「聖書と教えて聖伝は私たちに二つの側面を教えてくれています。まず、天使は、全存在を傾けて神を仰ぎ、神の御前にする一被造物であると言うことですります。神大天使の名前は〈エル〉つまず。神なを意味する言葉で終わります。神は

彼らの名前のうちに、その本性に刻み込まれているのです。その真の本性は、神のうちに神のためにあるのです。」[vi]

これは、天使たちの最も重要な使命 を浮き彫りにしています。それは、 至聖三位一体を礼拝し、見えるもの 見えないもの全てのものの創造主に 絶えず感謝の歌を捧げることです。 人間も天使と同じ目的を持つものと して創られました。天使は既にその 目的を果たしましたが、私たちは未 だその途上にいます。ですから、天 国への道を進んで行くためは、天使 の助けを頼りにするのがふさわしい のです。創立者はある時こう話され ました。「私は毎日、天使に祈り、 助けを願い、皆が神の臣下としての 礼拝を捧げることができるように、 子どもたちの守護の天使の取次ぎに より頼んでいます。こうして、私た ちは、全ての人に慰めに満ちた神の 教えを伝える熱意に燃え、きっぱり

とそれを実行する人になることがで きます。」[vii]

聖ホセマリアは、毎日の念祷の初め に、まず神の御母と聖ヨセフに取次 ぎを願った後、天使の助けを熱心に 願っていました。私たちはどれほど の信心を持って天使により頼んでい るのでしょうか。聞き入れられてい ることを確信していますか。特に感 謝の祭儀に関して、創立者はこうコ メントされました。「私は天使と一 緒に神を賛美し、称揚します。天使 と共にと申しましたが、ごミサを捧 げる時は天使に取り囲まれているの ですから、別に難しいことではあり ません。」「viii」また、ご聖体訪問を する時、彼らにどのように挨拶し、 どのように感謝し、礼拝したらよい か分からない時には、その点でも聖 ホセマリアの模範に倣うことができ ます。「聖堂に入ると、私はためら うことなく主に、イエスよ、御身を 愛しています、と申し上げます。そ

して、御父と御子、聖霊を褒め称え ます(…)。また、天使たちに挨拶 することも忘れません。彼らは、愛 し、礼拝し、償いを捧げつつ、ご聖 体の主の僕として、聖櫃を守り続け ているのです。昼夜を分かたずそこ に留まっている彼らに感謝します。 私は心で願うことしかできないので すから。ご聖体のイエスにいつも付 き添い、仕えている天使たちよ、あ りがとう!| [ix] 来る日も来る日も、 1928年10月2日の創立者の祈りに一 致することを望むよう勧めます。創 立者が応えられたことを感謝し、責 任を伴う対話が私たちの間で途切れ ることのないように。

至聖三位一体の優れた礼拝者であるがゆえに、「天使を特徴付ける神の使者という第二の側面」が完成されます。つまり、「人々を神に導き、天の門を開き、地上の障害物を取り払います。事実、神のみ前にいるのですから、人間のすぐ近くにもいる

このみことばと霊感を受けた聖書の 他の章句に基づいて教会は、「人間 は生まれてから死ぬ時まで、天使た ちの保護と取り成しを受けている」 「xiilと教えています。また、教会 は、教父たちが度々強調している次 のことも受け入れています。「個々 の信者には、生活を導くための保護 者、牧者としての役目を果たす天使 がついています。| [xiii] 天使の中 で、神が人間一人ひとりの傍に置か れたのが守護の天使です。彼らは私 たちの親友であり、聖書に強調され

ているように悪魔のはかりごとに対する戦いにおける友であり味方で肉を相手にするものではなく、天にで相手にするものではなる、天にでのとれている諸霊を相手にするものなえをいる。」[xiv] 創立者はこの教えをしまいでは、守護の時には、守護の天はは、悪魔からあよ。彼は、悪魔からあない。」[xv]

二世紀のキリスト教著者が、天使の ほのめかしを認めるため、また悪た から来るそそのかしと見分けるまた め、幾つかの印を提供して控えから 養いで静かです。であると、 り、その天使があなたの心義、 もしると、て、 を始めるいて、 と、で き始めるいて、 と、で き始めるでしょう。 このよう なことが心に浮かんだなら、善い天使があなたと一緒にいる証拠です。 それらのことは善い天使の働きと言うことになります。それゆえ、彼と その働きを信じることです。」[xvi]

原罪の悲しい遺産である善悪の戦いは、地上での人間の生活につきものです。それゆえ、古い祈りにあるように、守護の天使に助けを求めるのは当然のことです。Sancti Angeli Custodes nostri, defendite nos in proelio ut non pereamus in tremendo iudicio; 聖なる守護の天使よ、戦いにおいて私たちを護り、恐るべき審判で死の判決を受けることのないようにして下さい。

創立者はごく若いときから天使たち、特に自分の守護の天使に対して深い信心を培っていました。そして、オプス・デイ創立以後、その生涯には、神の礼拝者であり、天国へのよき道連れである天使に対する信

頼と堅固な信心を表す細やかな心遣 いが数多く見られます。また、その 著作にも人間を助ける天使たちの役 目について述べているところが多く あります。なぜなら、聖書に「天使 たちは皆、奉仕する霊であって、救 いを受け継ぐことになっている人々 に仕えるために、遣わされたのでは なかったですか | [xvii]とあるからで す。天使の介入を固く信じていまし たから、使徒職における重要な味方 として考えるよう教えられたので す。「使徒職に引き寄せたいと思う 人の守護の天使を味方に引き入れ よ。彼は常に素晴らしい『共犯者』 であるから | [xviii]と『道』にあり ます。他の箇所では、職業や社会的 な目的などから、生活しなければな らない環境が、度々神からかけ離れ ていると思えるような場合に関し て、きっぱりとこう言われました。 「あなたを取り巻く環境の中では道 から逸れる機会が多いと言うのか。 それはそうかもしれない。しかし、

守護の天使もいるではないか。」 [xix]

天使の聖母の教会の鐘の音が、創立者の耳から消え去ることは決してありませんでした。私たちの全生活は、聖母と天使たち、そして勝利の教会の全員と共に神を礼拝するものでなければならないことを忘れないために、鐘の音は私たちにおいても鳴り続けるべきです。

また創立者は、教会の教父たちの教父たちの教父たちの教父たちの教父たちの教父たちのと固有の役務に固有の役務に固有の役務でした。といてはいてもいるというではいました。天りのときないますが、必要がれたものを記された。アレルヤのような歌を作り、教会をはいるとない。

祷として、朝夕繰りで、私の天使に、朝夕繰りで、私の天使にるのですえるのでなる。 もています。かも全で言れない。 も全く言れな信でない。 もを言れないでで、 もながけでいるがはない。 がれないない。 がれないない。 がれないない。 がれないない。 がでいるが根がいる。 がでいると言が根がにないるがでいる。 がでいるがでいるがでいるがでいる。 がでいます。」 [xx]

聖なる天使についてのこれらの教えを度々考察し、一人ひとり自分のより自分で実行に移すよう努みをあるのまで実行に頼を込めてきるのましょう。 頼りな困難や壁のような大きのはないないないないで乗りなれたことで乗り越えるので乗りがしたがあれたことで乗りがしたがある。 会の霊的伝統という泉から飲み、教

内、あの愛のしるしを提示してくれ るのもあなたの天使である。

だから、決して守護の天使を忘れないようにしなさい。そうすれば、今も、あの決定的瞬間にも、天の王子(天使)があなたを見捨てることはないだろう。」[xxii]

内的戦いと使徒職において、いつも 天使の聖母の関心と保護を頼りにし ましょう。今月は、ロザリオの名の 下に祝われる聖母の祝日がありま す。このマリア信心は、神の栄光と 人々の救いのためのあらゆる戦いに おける「強力な武器|[xxiii]です。 天の母は、このマリア年に私たちを 照らし、私たちのために御子から溢 れんばかりの恩恵を勝ち取ってくだ さると確信し、これからの数週間、 特別の愛情をもって、この祈りを信 心深く唱え、前進することにしま しょう。

次の6日は創立者の列聖記念日であ ることを思い起こしてもらって、手 紙を終えることにします。彼の取次 ぎを通して主にお願いしましょう。 あの日に満ち溢れた超自然的な喜 び、そしてあの時にもたらされた聖 性へのさらなる熱意が、オプス・デ イの子どもたちと、オプス・デイに 近づく全ての人のうちに生き生きと 力強く保たれますように。皆さんに 打ち明けますが、私は毎日、神のし もベヨハネ・パウロ2世が創立者を 呼ぶにあたって、声を大にして使わ れた「日常生活の聖人 | [xxiv]という 言葉が、私たち一人ひとりにおいて 真に実現するようにと聖ホセマリア に願っています。別の言い方をすれ ば、聖ホセマリアは日々のあらゆる 状況において私たちを気遣っている 聖人ということです。創立者のこの 〈任務〉を大いに活用しましょう。 創立者は私たちを深く深く愛してお られるのですから。しかし、私たち

が聖人になることこそをお望みなのです。

本当に、毎月教会には多くの祝日があり、オプス・デイの歴史的な記念日もあります。日々の私たちのserviam! 仕えます!が一段と寛大になるために、それらの祝日をしっかりと過ごすようにして下さい。

心からの愛情を込めて祝福を送ります。

皆さんのパドレ

†ハビエル

ローマ、2010年10月1日

[i] ダニエル 3,59.

[ii] 聖ホセマリア、1963年12月24日 家族的な集まりでのメモ

<u>[iii]</u>『カトリック教会のカテキズ ム』331-333参照 [iv] ヨハネ・パウロ二世、1986年7 月9日一般謁見の講話

[v] $\neg \Box \forall 1,16.$

[vi] ベネディクト16世、2007年9月29日説教

[vii] 聖ホセマリア、1972年10月家族 的な集まりでのメモ

[viii] 聖ホセマリア、『知識の香』89

[ix] 聖ホセマリア、1972年1月6日家 族的な集まりでのメモ

[x] ベネディクト16世、2007年9月 29日説教

[xi] マタイ 18,10.

<u>[xii]</u> 『カトリック教会のカテキズ ム』336

[xiii] 聖バジリオ、Contra Eunomio 3,1(PG29,656B) [xiv] エフェソ 6,12.

[xv] 聖ホセマリア、『道』567

[xvi] ヘルマス, 『牧者』いましめVI, 2.

[xvii] ヘブライ1,14.

[xviii] 聖ホセマリア、『道』563

[xix] 同上 566

[xx] 聖ホセマリア、1967年11月26日 説教

[xxi] 聖ホセマリア、1974年6月16日 家族的な集まりでのメモ

[xxii] 聖ホセマリア、『拓』693

[xxiii] 聖ホセマリア、『聖なるロザ リオ』前書き

[xxiv] ヨハネ・パウロ2世、2002年 10月6日創立者の列聖宣言文参照 pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shuren-qu-chang-noshujian-2010nian-10yue/ (2025/12/13)